

写真展 ”PRIMAVERA 2022 /春 2022年”

本日は、うえかまりえこ写真展 ”PRIMAVERA 2022 春 /2022年”にお越し頂き、ありがとうございます。

今のバルセロナの街角を撮りたかった。
ただそこにある、いつもの日常のバルセロナ。
ストリート、街角にある日常の場面を撮るのが一番好きだ。
沢山の日常が交差して、そこに居る人々や色や空気が、街をカタチにしている気がする。

2022年3月6日にバルセロナ空港に到着。
2年半ぶりのバルセロナは、それほど久しぶりという訳ではないけど、いつもよりずっと懐かしさを感じた。
2020年春に始まった、国境を越えたパンデミックの現象がそう想わせるのだろう。
多分、すべての人にとって、自分の今居る場所以外の何処かが、これまで以上に、憧れの場所になったり、懐かしい場所になったりしてると思う。

パンデミックの当初にスペインはコロナに大きな影響を受けた。長らく住んだ土地だったので心が痛んだ。いつもとは違う意味で緊張した滞在ではあったけど、今回のバルセロナ行きをどことなく心待ちにしていた。

2022年、春のバルセロナの街角。
街自体は、この時点の前にも後にも存在するけれど、今のバルセロナ街は瞬間のカタチで、日々、刻々と変わってゆく。愛おしい。

うえかまりえこ*プロフィール

ストリートフォトグラファー。街角や人の撮影が好き。
鹿児島県枕崎市出身。大学ではスペイン語を専攻。一般企業に就職後、1990年にスペインのバルセロナへ。
バルセロナ大学附属スペイン文化研究所、カタルーニャ写真学校で学ぶ。
日系旅行会社等のオフィスワークを経て2001年より通訳や翻訳、雑誌・コマーシャル等の現地コーディネーターとしてフリーで働く。
2013年帰郷後、個展やグループ展にて作品を発表する傍ら、アートや語学を通してスペイン文化を広める活動をおこなっている。